

## 平成25年度練馬区立石神井東中学校 学校評価報告書

練馬区立 石神井東中学校  
校 長 堀井安伸

### 1 自己評価結果

#### (1) 概要

##### ① 自他の生命を尊重し正義を愛する心の育成

6月に殺人犯罪被害者遺族の会より講師を招き「いのちの授業」を全校生徒対象に実施した。講演に先立ち、各学級で道德の時間を活用して講師の心情について考えさせた。実施後には、生徒の心の変化や命の大切さについて感想等を書かせた。多くの生徒が、命の大切さについて改めて考えることができた。講演会は、保護者にも公開した。

ふれあい月間（6月、11月、2月）の取り組みや、生徒会によるいじめ防止プロジェクト等を通して、いじめの早期発見やいじめを許さない指導を実施した。いじめの早期発見解決につなげることができた。今後は、区の方針を鑑み、早急に学校いじめ防止基本方針に策定することが課題である。

##### ② 学力、生活における基礎・基本の定着

少人数指導や学力向上支援講師等を活用して、個に応じた指導を実施した。外部人材を活用し週1回補充教室を実施した。80%以上の生徒・保護者が授業を工夫していると肯定的に捉えている。今後は、問題解決学習や考える過程や整理する活動を積極的に取り入れるよう授業改善を行うことが課題である。

自己申告に伴う授業観察では、指導案に「学力向上に向けた工夫点」を明記し授業を行った。実施後は、管理職による指導を行い授業改善に努めた。

##### ③ 達成感、自己肯定感を育み人間力の育成

学校行事では、運動会、合唱コン等の充実度、及び感動度を100%にするという目標を掲げ、生徒が感動する行事を実施するため内容の精選と工夫を図り、各学年の指導を充実させた。93%の生徒が充実し満足したと回答した。さらに、保護者の90%が石東中らしい特色ある教育活動を実施していると回答した。

いじめ・不登校防止に向けて全学級でQ-Uを2回実施した。実施後は、スクールカウンセラーの助言をもらい、結果の分析や今後の対応について各学年で検討し対応した。しかし、『いじめ「0」を目指す取り組みが十分であると回答した保護者が63.6%にとどまった。今後は、ふれあい月間の取り組みやQ-U等について、保護者の理解を啓発することが必要である。

毎月、保健だよりを発行し、学活等でそれを活用した指導を実施した。しかし、肯定的に回答した生徒は54.2%、保護者は64.7%にとどまった。今後も、給食や授業を通して食についての意義や啓発を行っていくことが必要である。

## (2) 根拠となる資料（平成26年度 教育課程の改善点）

A ——— B ——— C ——— D

	項目	平成25年度教育課程の 学校評価（自己評価）	平成26年度に向けての改善点
1 学校運営・組織運営等	1 学校教育目標の設定・実施の状況	A	
	2 学校の明確な運営・責任体制の整備状況（校務分掌の状況、主任等を活用した校務処理体制の整備状況等）	B	
	3 情報管理の状況（公文書の作成・収集・保管、個人情報情報の保護等）	B	
	4 小中一貫教育、幼小連携など学校間の円滑な接続に関する工夫の状況	B	
2 学習指導等	1 指導計画、評価計画、授業時数等の教育課程の編成・実施の状況	B	
	2 適正な評価・評定の実施と校内体制の整備	B	
	3 基礎的・基本的な知識や技能の習得に向けた指導の充実	B	
	4 思考力・判断力・表現力を育成する指導の充実	C	問題解決学習や考える過程や整理する活動を積極的に取り入れるよう授業改善を行う。
	5 理数教育の充実	B	
	6 学校図書館の活用および読書活動の状況	B	
	7 授業の充実に向けた外部人材の活用状況（少人数・TTなど）	A	
	8 説明、板書、発問など、各教員の授業の実施方法	B	
	9 授業改善推進プランの公開と活用状況	A	
	10 ICT教育の推進および電子黒板の活用状況	B	
	11 校内・校外研修の実施状況（研究授業、教材研究・指導方法に関する研究等）	A	
	12 副教材の活用状況・組織的な対応（保護者負担の学年差・教科差の状況）	B	
3 道の時間・総合的な学習の時間・特別活動	1 道徳教育全体計画・年間指導計画の活用状況	B	
	2 道徳教育推進教師を中心とした校内体制の整備	B	
	3 道徳の時間の実施状況（週ごとの指導計画による内容の確認）	B	

	4 規範意識を身に付けさせる取組	B	
	5 総合的な学習の時間の取組状況	B	
	6 特別活動の取組状況(学校行事等を教科等に不適切に代替している状況はないか)	A	
4 人権教育	1 人権教育の全体計画・年間指導計画の活用状況	B	
	2 教職員に対する人権感覚向上の取組状況	B	
5 生活指導	1 いじめ問題への取組状況	A	
	2 学校いじめ防止基本方針等の達成状況	C	学校いじめ防止基本方針に策定に向けて現在検討中である。区の方針を鑑み早急に策定する。
	3 不登校、教育相談体制および取組状況	A	
	4 心のふれあい相談員、スクールカウンセラーの活用状況	A	
	5 情報モラル教育の充実	B	
	6 学校サポートチームの設置状況	A	
6 進路指導	1 進路指導体制の状況	B	
	2 キャリア教育全体計画活用状況	B	
7 安全管理	1 学校安全計画の作成・実施状況	A	
	2 危機管理マニュアルの作成・活用状況	B	
	3 安全点検の実施状況(通学路の安全点検を含む)	B	
	4 セーフティ教室および薬物乱用防止教室の実施状況	B	
	5 地震対策の手引きの活用状況	B	
8 体力の向上・健康の 保持増進	1 体力向上への取組状況(新体力テストの結果の活用等)	B	
	2 健康診断(事前指導・事後措置を含む)の実施状況	A	
	3 食育全体計画の活用および食育の推進	B	

	4 性教育全体計画・年間指導計画の活用状況	B	
9 特別支援教育	1 校内支援体制の整備状況（校内委員会、特別支援教育コーディネーター、校内研修、学校生活支援員等）	A	
	2 個別の指導計画および教育支援計画の作成状況	B	
10. 学校評価	1 自己評価の実施状況	C	精度の高い調査結果を得るために調査項目の見直しが必要である。
	2 学校関係者評価の実施状況	B	
	3 公表の実施状況	B	
11. 民等との連携 保護者地域住	1 学校評議員やPTAとの懇談や学校運営協議会などの実施状況	B	
	2 学校運営への保護者、地域住民の参画および協力の状況	B	

## 2 学校関係者評価

### (1) 総括

#### ① 成果

- ・教育課題の改善点「学校図書館の活用および読書活動の状況」について、自己評価をBとしているが、生徒アンケート「石東タイムで読書習慣を身に付け、年間5冊以上本を読んだ生徒」の肯定的な回答が前年度とほぼ同様の66.2%であった。しかし、本離れが多い状況を考えると、非常によく取り組んでいる。自己評価は「A」でいいと考える。
- ・運動会、合唱コンクールは日頃の指導の結果が本番当日に発揮することができた。参観者からも、肯定的な意見が多かった。
- ・小中一貫教育の研究は、小学校、中学校と学びの連続性を踏まえたよい取り組みだと考える。実際に、研究発表会に参加し、今後の連携の強化に期待する。
- ・保護者アンケートの「生徒が学校に行くのが楽しい様子である」では、肯定的な回答が92.8%になっている。日頃の学校の教育への取り組みが現れている。

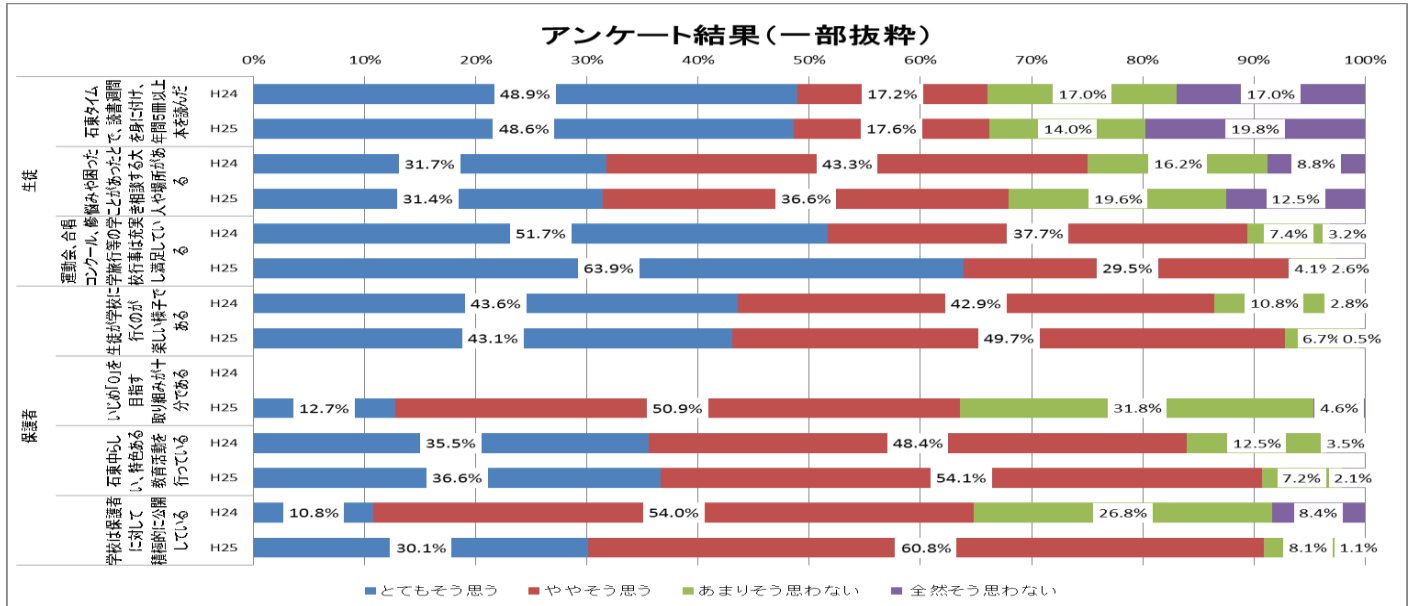
#### ② 課題

- ・いじめ防止にむけた「ふれあい月間」の取り組みが、6月・11月・2月になっているが、いじめ防止に向けて年間3回の取り組みでいいのか、もっときめ細かく取り組みを実施する必要がある。
- ・保護者は、運動会や合唱コンクール等の行事へは参加するが、学校公開日等における授業を参観する保護者は少ない。もっと保護者が授業を参観できることが必要である
- ・生徒アンケート「悩みや困ったことがあったとき相談する大人や場所がある」の肯定的な回答が、前年度より7%減少した。生徒が気軽に相談できる環境を構築することが課題である。

### ③改善策

- ・ いじめ防止・早期発見・早期解決に向けて、生徒とのコミュニケーションを一層深めるとともに、いじめ調査を毎月実施しきめ細かな対応を行っていく。
- ・ 本の内容を紹介する機会を増やし、生徒の本に対する興味や関心をもたせる取り組みを多くする。
- ・ 授業公開日にPTA活動等を行い、多くの保護者が学校に来る環境をつくる。
- ・ 新入生等に対して、スクールカウンセラーと面談する機会を1学期の始めに設定する。

## (2) 根拠となる資料



## 3 評価結果の公表等

添付した「学校だより」を各家庭に配布し、さらに本校ホームページに掲載している。

## 4 次年度の学校改善に向けた校長の見解

### (1) 中期目標の達成状況

#### ①めざす生徒像

9割以上の生徒は明るく生き生きとして礼儀や規範意識が身に付いている。授業規律等も確立しており、校内暴力等の課題は少ない。行事や部活動には、積極的であり真摯に取り組み、大きな成果をあげている。

課題としては、人権感覚、主体性、自尊感情、自己有用感等、年齢に応じた成長が不足している。さらに、特別な支援を必要とする生徒が増加しつつあり、特別支援を基調とした具体策が必要である。生徒数が多いことで、課題が多岐にわたり個別指導に継続的、組織的な具体策が必要である。自己肯定感や自己有用感が不足している生徒がおり、将来の夢や目標を持たせる指導が必要がある。

#### ②めざす学校像

生徒数が多いことで様々な活動において切磋琢磨ができ人間力を高める環境にある。そのため、各種の学校行事を活発に活動し、満足感、充実感が高く、感動体験を与えている。保護者、地域の理解と協力は得られており、概ね学校の支援者である。各教員が適切な役割を担っており、組織として確立している。

課題としては、保護者は教育活動全体については肯定的だが、教育の質については不満の意見がややある。地域行事への参加等、連携をさらに強化し「地域の学校」を確立させる必要がある。適切且つ迅速な課題解決に向け、学年・学校としての組織力のさらなる向上が必要である。

### ③めざす教師像

教員としての使命感をもち、指導力がある教員が多く、改善への努力を惜しまない。生徒の主体的な活動を支援し、適切な指導をしている。教員同士は、課題解決に向かうときの共同の精神が強く、教職員間は良好である。

課題としては、生徒の特性、社会の変化、教育界の変化、都や区の教育施策に対して主体的に対応する姿勢を維持するために、意図的・計画的な校内研修の充実が必要である。また、若手の育成が緊急的な課題であり、明確且つ組織的な OJT による育成が必要である。

### (2) 短期目標の方針

これまでの経営方針「新たな前進」としてきた3年間で終了した。その実践によって得られた成果は、確実なものになりつつあり、本校の新たな伝統として築き上げることができたと考える。それは、特別活動の充実やいじめ・不登校の減少や人権教育の充実等である。そこで、これまでの教育実践を継承しながらも新たな課題を加え下記のような「4つの柱」を定め実践していくこととする。

- ①人権教育先進校に学びつつ人権尊重の精神の育成を図る。
- ②小中一貫教育の実践を通して、様々な課題に対する解決策を発見し学力向上を図る。
- ③主体的な研鑽を積み生活指導の質を高め、社会人としての規範意識の向上を図る。
- ④キャリア教育の質を高め、主体的に夢や目標を達成しようとする心の向上を図る。

そして、この一つ一つにおいて先進校の実践を学びつつ、本校の特色ある教育活動を確実にを行い、教育目標の具現化を図っていく。

また、地域の中にある学校として、「目指す学校像」を達成する過程において、地域住民や学校評議員・PTA 等保護者の教育力を活かし、生徒を安心して通わせることのできる地域から信頼される学校づくりを進める。さらに、新たに発生してくる課題解決に向け、明確な目標と確実な実践を推進し、その結果に対する検証を励行するという PDCA サイクルを充実させ、確実に成果を上げることが重要であると考え。経営方針を「さらなる教育力の向上と確実な実践」とする。